

市町村名	郡上市	学校名	郡上市立明宝中学校			
校長名	熊田 一泰	対象学年	2年生	人数	19名	
活動名	明宝地域の聞き書き学習		時間数	10時間	継続年数	1年
題材	1 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） [] 2 歴史（出来事・史跡・先人・その他） [] ③ 文化（芸術・風習） [地域の高齢者からの聞き書き学習] ④ 地場産業（農業・その他） [地域の高齢者からの聞き書き学習] 5 その他（ ） []					
複数年継続する工夫改善	○地域公民館から、明宝中学校生徒全員が「明宝ふるさと元気づくりサポーター」に任命され、地づくりへの参画が期待されている。 ○明宝振興事務所との協働により、明宝地域の聞き書き学習を行った。そのため、岐阜県立森林文化アカデミーの指導や地域組織「ななしんぼ」の協力、該当高齢者の選定など、地域の支援を受けることができる。 ○地域の高齢者を学校へ招いて聞き書きを行うことで、地域を愛し発展させてきた先人の思いに触れることができ、郷土愛を育つとともに、高齢者を大切にすることを養うことができる。					

- 1 ねらい
- ◎昔の明宝地域のことやふるさとを愛し発展させようと努力された高齢者等の話を聞きまとめる活動を通して、郷土の魅力に気づくとともに、郷土に対する愛着と誇りを育む。
 - ◎地域の高齢者との交流を通して、人へのあたたかい見方や接し方を身につける。
- 2 活動の概要
- ① 明宝振興事務所から「地域の昔の様子やそこに生きる人の思いを探る聞き書き」の依頼を受け、ふるさと学習として2年生の総合的な学習の時間を活用して、今年度初めて挑戦した学習である。
 - ② 聞き書きの経験豊かな岐阜県立森林文化アカデミーの嵯峨准教授や学生の協力を受けての取組である。
 - ③ 高齢者を招いての聞き書き本番では、はじめは語り手も聞き手も緊張していたが、高齢者のあたたかい対応により、段々互いの笑顔がある楽しい高齢者とのふれあいのある会になった。
 - ④ 聞いた話を各自分担してテープ起こしをし、みんなで一つの原稿にした。その後、地域組織「ななしんぼ」の協力により、活字化し作品にした。
- 3 地域住民とのかかわり、地域社会への貢献の様子、複数年継続への工夫改善
- ① 地域住民との関わり・・・地域振興事務所や公民館、地域組織との協働の取組であり、今後数年続けていき、明宝地域の聞き書き集を作成する計画である。地域の高齢者との話を聞くことで、ふるさとを愛し発展させようと努力された生き方を学び、郷土を愛する心情が育つとともに、高齢者を大切にすることを養う態度が育つ。
 - ② 地域社会への貢献・・・生徒がまとめた「聞き書き集」が地域に残ることはもちろん、高齢者を学校へ招き、自分の話を語ることで自分が、高齢者にとっては喜びであるようであった。また、聞き書きの取組を文化祭やめいほうフェスティバル 2013 で発表することで、多くの地域住民が地域について知るとともに関心をもつことにつながると考える。
 - ③ 複数年継続への工夫改善（上記枠内に記載のため省略）
- 4 活動による児童生徒の変容（伸長・成長等）
- ① 地域の昔の様子やふるさとを愛し、発展させようと努力した人の生き方を知ることにより、地域に関心をもつとともに、郷土を愛し、さらに発展させようとする心情や態度が育った。
 - ② 高齢者の話を丁寧に聞こうとする態度が養われるとともに、高齢者を敬う心情が育った。
 - ③ 高齢者の話を原稿にする作業を通して、粘り強く活動することの大変さやよさを体感するとともに、仲間とともに一つの作品を作り上げた達成感を味わうことができた。
 - ④ 地域の文化的な行事「めいほうフェスティバル2013」で、自分たちの取組を堂々と発表することができた。また、自分たちで朗読の箇所を決定して、効果的に学習をまとめ発信する力がついた。



市町村名	郡上市	学校名	郡上市立明宝中学校			
校長名	熊田 一泰	対象学年	1年	人数	29名	
活動名	郷土芸能「磨墨太鼓」学習		時間数	10時間	継続年数	29年
題材	1 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） [] 2 歴史（出来事・史跡・先人・その他） [] ③ 文化（芸能） [郡上市明宝地域の磨墨太鼓] 4 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） [] 5 その他（ ） []					
複数年継続するための工夫改善	○地域の優れた伝統芸能を学校の教育活動に位置付けていること。（当初は「クラブの時間」としての活動、近年は「総合的な学習の時間」や「教科（音楽）」として位置付けている） ○学習の発表の場として学校行事（文化祭）を位置付けている。今年度は、地域の文化的な行事である「めいほうフェスティバル 2013」でも発表。 ○地域の優れた人材に継続的に指導を依頼し、地域人材と教師が協力して太鼓指導を推進するとともに、熱意ある指導者の生き方理解につながるよう指導している。 ○地域の磨墨太鼓保存会の活動に参加する生徒を核として、和太鼓楽曲の学習取組を進めている。					
<p>1 ねらい</p> <p>◎郷土の伝統芸能である和太鼓の音色や魅力に気付くとともに、礼節を重んじる心と連帯感を身に付ける。 ◎ふるさと明宝の文化を知り体験することにより、郷土に対する誇りと郷土愛を育む。</p> <p>2 活動の概要</p> <p>①本校では、クラブの時間が発足した約30年前から磨墨太鼓の学習を教育活動に位置付けてきた経緯と実績があり、今年は総合的な学習の時間で1年生が取り組んだ和太鼓楽曲「和」を文化祭と地域のめいほうフェスティバルで披露した。 ②本校の総合的な学習の時間（1年生）はふるさと学習をテーマとし、この「磨墨太鼓」学習も郷土理解に深まりを生みだしている。 ③明宝地域の磨墨太鼓保存会が生徒への演奏技術指導を担っている。また、練習会場（太鼓会館）への移送は市教委スクールバスの送迎協力を得ている。</p> <p>3 地域住民とのかかわり、地域社会への貢献の様子、複数年継続への工夫改善</p> <p>(1) 地域住民との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導者の専門性と熱意により生徒への太鼓指導は磨墨太鼓保存会（会員約35名）が担っている。本校「磨墨太鼓」の特別講師として、毎年継続的に指導いただき、本校が郷土伝統文化と和太鼓を取り入れてからは実質的にその指導者となり、生徒の実態にあった指導をいただいている。 <p>(2) 地域社会への貢献</p> <p>①「磨墨太鼓ジュニア保存会」活躍の基盤</p> <ul style="list-style-type: none"> 磨墨太鼓保存会の小学生から高校生までで作る「磨墨太鼓ジュニア保存会」は毎年和太鼓の県大会に出場し、全国大会にも何度か出場している。本校1年生の磨墨太鼓学習を経験してから太鼓に興味をもち、磨墨太鼓ジュニア保存会の一員として活動を始めた生徒や高校になって太鼓の活動を始めた者もいる。また、本校の磨墨太鼓学習がこうした動きの基盤となっている。 <p>②夢や希望をもった郷土定着・地元就職</p> <ul style="list-style-type: none"> 演奏者や指導者として和太鼓に関わろうとする卒業生が毎年何名かいる。企業・職種等、就職先が豊富な地域ではないため、このような魅力ある活動が地元定着の決め手になる場合もある。 <p>③複数年継続への工夫改善（上記枠内に記載のため省略）</p> <p>4 活動による児童生徒の変容（伸長・成長等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○和太鼓演奏が地域の文化・地域の誇りととらえられており、生徒もプライドをもって磨墨太鼓の発表に取り組むことができる。また、この演奏を通して明宝地域の一員であるという自覚も高まる。 ○磨墨太鼓の発表を通して、郷土の伝統文化や芸能を学んでいる。これは明宝地域の中学生が、中学在学中及び卒業後も地域の祭礼に関わり続ける素地育成に大きく貢献している。 ○この学習は、ふるさとの良さに触れるとともに、仲間と共に作品を創り出す機会となっている。これは学校の教育目標「ふるさとを愛し、自他の命を大切にする生徒」を育てる貴重な教育実践の場となっている。現実には文化祭後の時期に、明宝中学校の1年生は中学生としての自覚ある言動が顕著になってくる。 						
						

市町村名	郡上市	学校名	郡上市立明宝中学校			
校長名	熊田 一泰	対象学年	1年	人数	29名	
活動名	明宝小川地区での宿泊研修		時間数	20時間	継続年数	7年
題材	① 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） ② 歴史（出来事・史跡・先人・その他） ③ 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） ④ 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） ⑤ その他（ ）		[徒歩小川峠越え・山菜採集と飯盒炊飯] [小川地区の方との交流、畑佐鉦山の学習] [小川小学校との交流] [林業体験学習、めいほう高原での体験学習] []			
複数年継続するための工夫改善	<p>○1年生の宿泊研修（2泊3日）でふるさと学習を取り入れて7年目を迎える。目的地小川までの往路（約16km）の峠越えを徒歩で行っているが、小川峠道（通称「馬方の道」）の安全整備は地元の方や保護者の協力で成り立っている。</p> <p>○活動内容もふるさと学習に主眼を置き、小川地区の方との交流（先人に学ぶ）や小川小児童との交流、山菜採集にての飯盒炊飯（地元有識者）、間伐材での薪作り等の林業体験学習（森林組合や林業クラブ）など、外部講師による専門的な指導を位置付けている。</p> <p>○今年度は、復路の峠越え徒歩を取りやめ、明宝地域の観光施設である奥住地区のめいほう高原（スキー場）での体験活動や畑佐鉦山跡地の散策と説明（地元有識者）を取り入れ、広く明宝地域を知るように変更した。</p>					
<p>1 ねらい</p> <p>① 小川地区をはじめ明宝地域の文化や歴史、人々に触れ、その地域で暮らすことのよさを知るとともに、自分の住むふるさとへの愛着を深める。</p> <p>② 集団生活の中で、一人一人が役割を果たすことや仲間と協力することの大切さを知り、自分や仲間のよさに気付き認め合うとともに、やりきった達成感を味わわせる。</p> <p>2 活動の概要</p> <p>① ふるさと学習として1年生宿泊研修を位置付けている。目的地小川までの往路（約16km）徒歩での峠越えを組み入れ、先人を偲び小川峠道（通称「馬方の道」）を体感する。</p> <p>② 夜の研修では、小川地区の方との交流（地元老人会・自治会）を位置付け、ふるさとの歴史や風習、産業等について学んでいる。</p> <p>③ 小川地区で地元講師の指導による、山菜採集とそれを使った飯盒炊飯、地元の小川小学校との交流、間伐作業や薪作り等の林業体験学習を組み入れ、ふるさとの自然・歴史・文化・産業について体験的に学んでいる。</p> <p>④ 今年度は、明宝地域の他地区も関心をもたせようと、めいほう高原での体験活動や畑佐鉦山跡地の見学（地元有識者）を取り入れた。</p> <p>3 地域住民とのかかわり、地域社会への貢献の様子、複数年継続への工夫改善</p> <p>(1) 地域住民との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小川峠道の整備をはじめ、すべての活動内容が小川地区をはじめ、地域の方や保護者の協力なしでは成立しないふるさと体験学習である。高齢化や過疎化が進む小川地区にとっては、中学校のこうした学習活動を大変歓迎していただき、地域密着と同時に全面的な協力と支援を得ている。 <p>(2) 地域社会への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと学習として宿泊研修を地元小川で実施すること自体、地元や地域の方々から歓迎されている。特に、先人を偲び小川峠道（通称「馬方の道」）の踏破や間伐の林業体験等は、ふるさとへの愛着や地元産業を学ぶ格好の機会となっている。 <p>(3) 複数年継続への工夫改善（上記枠内に記載のため省略）</p> <p>4 活動による児童生徒の変容（伸長・成長等）</p> <p>① 「耐性の欠如や打たれ弱さ」が生徒の実態として指摘される近年、本校生徒も「たくましさがない」ことが課題になっている。この研修での「小川峠越え」をして歩ききった体験は、仲間と共に達成感を味わい、仲間意識を育てることにつながる。また支えてくださる方への感謝の心を育てている。</p> <p>② 林業体験学習をはじめとする体験的な活動を通じて、ふるさとの自然や文化・産業に触れ、郷土に愛着を感じるとともに、「汗を流して働くこと」の貴さを身をもって体験することにつながっている。</p> <p>③ 山菜採りによる天ぷら、アマゴの塩焼きなど、地元の食材を生かした食事作りは、地域の自然の豊かさを体感することができる。</p> <p>④ 生徒は、宿泊研修のすべての活動が、地域の方の指導や支えで成り立っていることに感謝するとともに、地域の方は地元を愛し、自分たちを大事にしていること、地域で学び育つことの素晴らしさを感じた。</p>						
 						